

きょうせいだより

KYOUSEI DAYORI

No.43 R8.6

矯正を知ろう！再犯防止をもっと身近に！

- CONTENTS -

- ・コレワーク九州×福岡刑務所
スタディツアー開催！
- ・インタビュー
地域生活定着支援センター センター長
- ・検証！
精神障害を有する者等の性犯罪被害
- ・あなたの街の矯正施設②
佐賀少年鑑別所

九州矯正管区
再犯防止推進
イメージキャラクター
コウセイデントウ



再犯防止 犯罪に
戻らない 戻さない
立ち直りを支える地域の力

きょうせいだよりってなに？

※
本誌は、地方公共団体や民間団体の皆さまに、法務省の再犯防止の取組や矯正施設のことなどを知ってもらいたいという思いを込めて配信するお便りです。日々の業務の合間に手に取ってご覧いただき、私たち矯正のことを少しでも身近な存在として感じていただければ幸いです。

※矯正施設…犯罪や非行をした人に自らの罪を反省させるとともに、円滑に社会復帰できるよう内省を深めさせたり、訓練を行ったりする施設の総称。刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所がある。



※コレワーク九州…全国の受刑者・少年院在院者から事業主が求める人材を検索し、条件に当てはまる者が入っている矯正施設を紹介するなどして、事業主と受刑者・少年院在院者をつなぐサポートを行うことで、九州矯正管内の施設の就労支援をサポートし、再犯防止に取り組む法務省九州矯正管区の機関。



コレワーク九州 × 福岡刑務所 スタディツアー 開催！

国の再犯防止施策の一環として、法務省九州矯正管区コレワーク九州では、矯正施設との共催でスタディツアーを開催しています。スタディツアーでは、施設見学に併せて、刑務所出所者等の雇用を検討されている協力雇用主、事業主の方を対象に実施する刑務所出所者等雇用支援セミナーを開催しています。コレワーク九州では、近年スタディツアーの開催に力を入れており、出所者雇用経験のある事業主、刑務官や矯正施設の就労支援担当者を交えた意見交換の機会を設けることにより、雇用主は受刑者の実情を知り、出所者雇用に対する不安の解消にもつながるなど、事業主の好評を得ています。

本年5月19日に福岡刑務所で開催されたスタディツアーには、出所者等の雇用を検討する企業の経営者など、約70人が参加されました。



interview

おばた たかひと
小畑 孝仁さん
福岡県地域生活定着支援センター
センター長

地域生活定着支援センターについて

各都道府県が設置する「地域生活定着支援センター」は、平成21年度から**高齢又は障害により支援を必要とする矯正施設退所者を、退所後直ちに福祉サービス等につなげるため整備**され始め、平成23年度末には全国47都道府県への整備が完了しました。令和3年度からは被疑者等支援業務を開始し、現在は左記の5つの業務を実施しています。

- ①コーディネート業務（「出口支援」矯正施設退所予定者の福祉サービスへのつなぎ）
 - ②フォローアップ業務（矯正施設退所者の受入れ施設等をフォロー）
 - ③相談支援業務（犯罪をした者やその家族等からの福祉サービス等の利用に関する相談への支援）
 - ④被疑者等支援業務（「人口支援」被疑者等を福祉サービスへつなぎ、その後フォロー）
 - ⑤関係機関等との連携及び地域における支援ネットワークの構築等に係る業務
- 福岡県は、NPO法人抱樸

が受託して同センターを運営しています。

出所者ではなく生活に困っている方

野口…まず、罪を犯した方の支援に携わるようになった経緯を教えてください。

小畑…私は平成22年から福岡市内の無料低額宿泊所で相談員として約2年間勤務していました。路上生活者の方など、住まいに困っている方を対象に、一時的な宿泊場所の提供と生活支援を行っていました。が、行き場のない刑務所出所の方が多く、担当している10人中4〜5人が出所者という

状況でした。当時は「出所者支援」という特別な意識ではなく、「生活に困っている方を支える」という感覚でした。

その後、法人内の異動で福岡県地域生活定着支援センターに配属となり、10年ほど前にセンター長になりました。同センターの業務は無料低額宿泊所での勤務に通じる部分があると感じています。無料低額宿泊所での勤務を合わせた16年間で、約1,200件、出所者の方の対応をしました。

野口…福祉分野に進まれたきっかけは何だったのでしょうか。

小畑…もともと強い志があつて入ったというよりは、求人を見て応募したのがきっかけです。ただ、生活困窮などの社会課題には以前から関心があり、自分のできる範囲で困っている方の役に立てたら、という思いがありました。右も左も分からないまま、飛び込んだ世界でしたが、





気がつけば、長くこの仕事に携わっています。

地域生活定着支援センターの業務

野口…地域生活定着支援センターはどのような役割を担っているのですか。
小畑…刑務所を出所される方の中で、高齢者や障がいのある方など、福祉的な支援が必要な方が地域で安心して生活できるように、出所前からご本人の希望や必要な支援を確認しながら、住まいや福祉サービス、医療などを調整しています。刑務所や保護観察所といった司法機関と、地域の福祉・医療・行政をつなぐ

「支援は私たちだけでは完結しません。
だからこそ地域で支え合う必要があります。」

「橋渡し役」として支援を行っていきます。
出所後も、行政手続きへの同行や通院、買い物など、生活に慣れるまで継続して関わります。
また、令和3年度からは「入口支援」にも取り組んでいます。これは刑務所に入る前の段階、つまり被疑者・被告人の段階で支援につながるもので、数日後に釈放されることもあるため、短期間で住まいや支援体制を整える必要があります。近年、入口支援の件数は増えており、司法関係者の中にも、福祉的な支援が必要という視点を持つ人が増えていくのだと感じています。
野口…支援を行う中で、難しさを感じることはありますか。
小畑…支援者が考える支援方針と、ご本人の希望との間にずれが生じることがあります。私たちには強制力がなければご本人の同意がなければ支

援は進められません。ご本人の気持ちを尊重しながら、どこで折り合いをつけていくかが非常に難しいです。
また、刑務所内で支援を希望していても、出所して自由な生活になると、「もう支援はいりません」と関係が途切れてしまうケースもあり、そのことは大きな課題です。

地域の理解

野口…地域の受け止め方に変化はありますか。
小畑…以前は出所者支援に対して拒否的な反応もありましたが、現在は以前よりハードルが下がってきたと感じます。実際



に出所者の方が再犯せず頑張っている姿を見て、「特別な存在ではなく、同じ一人の人間」と少しずつ認識が変わってきているのだと思います。
野口…最後に、地域の方々へメッセージをお願いします。
小畑…まずは地域生活定着支援センターの取り組みを知っていただくことが大切だと思います。支援は私たちだけで完結するものではなく、地域の皆さんの関わりがあってこそ成り立ちます。もちろん、いきなり受け入れることが難しいことは理解しています。ですが、「話を聞いてみる」、「一緒に考えてみる」というところから関わってもらえるだけでもありがたいです。一緒に考える過程の中で、新たな視点や支援の可能性が見えてくることもあります。そうやって、地域での支援の輪を広げていければと思います。

検証！

精神障害を
有する者等の
性犯罪被害



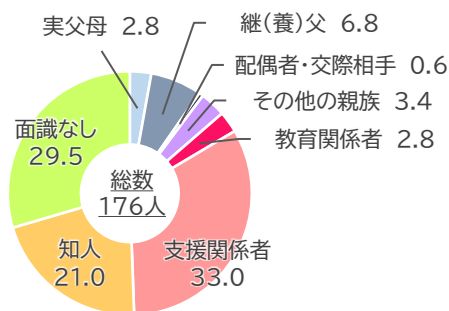
法務総合研究所では、特に被害が潜在化しやすいとされる精神障害者である性犯罪被害者を主な調査対象として、その被害を防止し、支援策を検討するための基礎資料を提供することを目的として、被害の実態について調査を行いました。調査は、性犯罪被害者に新たな負担を生じさせないよう、既存の刑事事件の判決書や確定記録を用いて行われました。

令和7年版犯罪白書では、同調査の内容と調査で明らかになった事項が紹介されています。本誌でも、その一部をご紹介します。

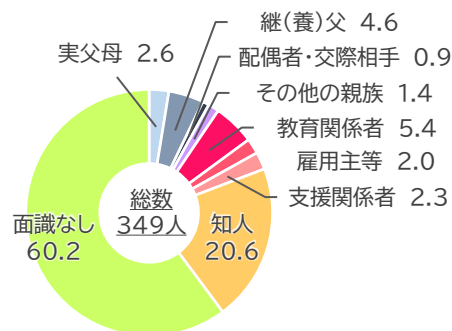
調査対象被害者のうち、精神障害を有する者について、精神障害の種類等（重複計上による）を見ると、調査対象被害者の7割以上が「知的障害」に該当し、2割程度が「発達障害」に該当しています。詳細につきましては、令和7年版犯罪白書をご覧ください。

図1 被害者から見た加害者の立場

【被害者－精神障害あり】



【被害者－精神障害なし】



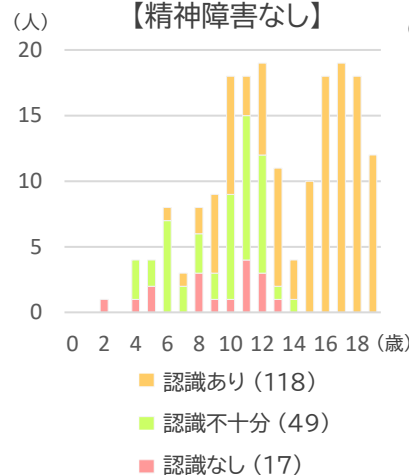
注1 法務総合研究所の調査による。
 2 「継(養)父」は、母親の内縁の夫を含む。
 3 「雇用主等」は、勤務先の上司を含む。
 4 総数は、被害者数に対応した加害者の延べ人員である。

図1は、被害者から見た加害者の立場を、群別に見たものです。精神障害あり群と精神障害なし群を比較すると、精神障害あり群に対する事件の加害者は、精神障害なし群に対する事件の加害者よりも「支援関係者」の構成比が高く、「面識なし」の構成比が低くなっています。

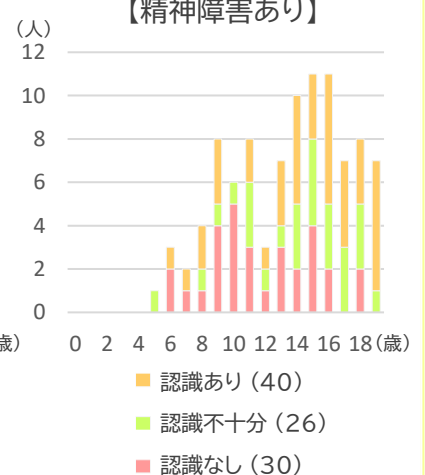
図2は、調査対象被害者のうち、20歳未満の者について、群別に、被害当時の被害認識

図2 被害当時の被害認識(年齢別)

【精神障害なし】



【精神障害あり】



注1 法務総合研究所の調査による。
 2 20歳未満の者に限る。
 3 ()内は、実人数である。

について、「認識あり」、「認識不十分」、「認識なし」の人数を年齢別に見たものです。精神障害を有する性犯罪被害者について、精神障害なし群と比べると、加害者から行われた行為自体を認識できていなかったり、その行為の意味内容をほとんど理解できていなかったり、あるいは、何らかの違和感や不快感等を伴う行為をされたことは認識しているものの、それが犯罪行為の被害であることまで明確に認識できていなかったりする傾向が見られ、被害認識が全くなかったか、十分ではありませんでした。精神障害を有しない性犯罪被害者については、15歳以上になると、全員が犯罪行為の被害を受けたことを認識できているという特徴が認められました。

質問やご意見、取り上げてほしい事項などありましたら、当課までお気軽にご連絡ください。

お問合せ先

九州矯正管区 更生支援企画課 福岡市東区若宮5丁目3番53号

TEL:092-661-1143 (直通) FAX:092-663-1001

MAIL: i.kyuushuukyouse.ga0@i.moj.go.jp



佐賀少年鑑別所



所在地：佐賀県佐賀市



9
あなたの街の
矯正
施設
Vol.21

POINT



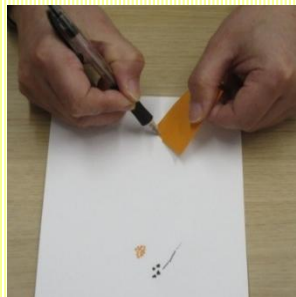
運動の様子▲▶



当所の所在する佐賀市は、九州の北西部に位置する佐賀平野の中心にあり、北は美林と清流の脊振山系、南は日本一の干満差を持つ豊穡の有明海に抱かれています。毎年10月下旬から11月上旬には、佐賀インターナショナル・バルーンフェスタが開催され、佐賀の青い空はカラフルなバルーンで彩られます。この期間に限ってJRの駅（バルーンさが駅）が臨時に開業されることでも有名です。自然に囲まれた環境の中にある当所は、時に佐賀平野の特徴である大雨による浸水と闘いながら日々を重ねています。

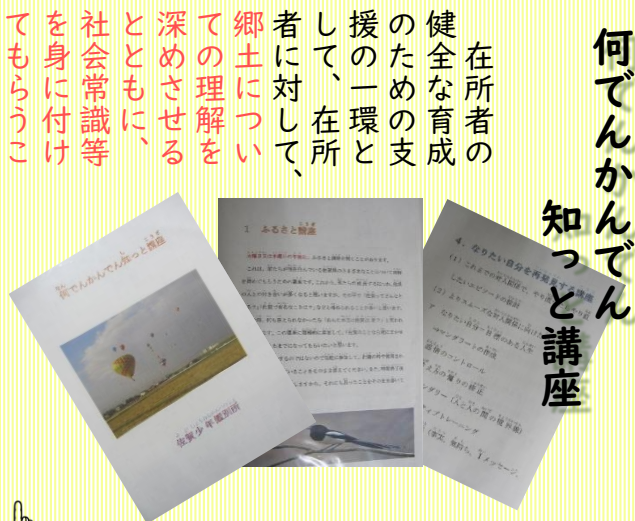
バルーンで有名な街にある少年鑑別所

▼貼り絵制作



た」等の感想が寄せられており、評判は良好です。

在所者の健全な育成のための支援の一環として、在所者に対して、郷土についての理解を深めさせるとともに、社会常識等を身に付けてもらうことで、身の回りのことに対する知識欲の喚起にもつながって欲しいという趣旨で、「何でんかんでん知っと講座」（佐賀弁で「何でも知ってみよう」という意味）を実施しています。これまで、「ふるさと講座」、「健康と暮らし講座」、「なりたい自分講座（リフレクティング活用）」、「折り紙講座（試行）」を実施しました。在所者からは、「自分たちの暮らす街のことについて学ぶことができた」等の感想が寄せられており、評判は良好です。



VOICE

当所に入所する少年は、学校に所属する者であれば、いわゆる「問題児」として捉えられている場合も多いと感じます。それでも、本人らに色々な話を聞きますと、学校や勉強に何かしらの思いを抱いている者も少なくありません。私がこれまで対応した少年で、中学生でありながら、「九九」の「2の段」以降があまり分からないという者がおりました。本人が学習指導（健全育成指導）を希望して、「九九を覚えたい。」と話したことから、「九九」を指導したところ、2週間ほどで「九九」をマスターして出所していきましました。後日談として、友人に「九九」をマスターしたことを自慢気に話していたそうです。このように小学2年生の学習範囲である「九九」を習得できていないような少年が、学校への不適応感を強めて離反することもある現状を踏まえると、当所で落ち着いた生活を送る機会があるだけでも本人にとってプラスに働くこともあると感じます。このような少年に対して、早期から手を差し伸べることができれば、非行に走ることを食い止められるのではないかと思います。地域の方にも支援（地域援助）を行っています。



現場職員の声——幹部職員——